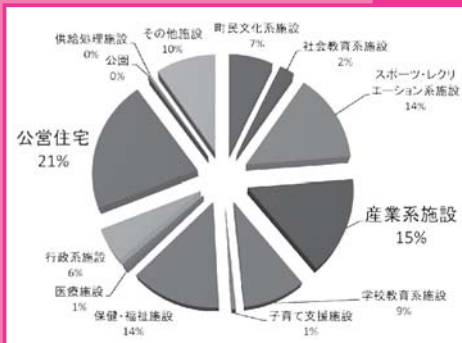


ふるさと創造懇談会

公共施設のありかた

○現在の公共施設の現状と課題



沼田町人口一人当たりの公共施設等保有量

昭和55年 総床面積 45,199㎡
(7.19㎡/人)

平成30年 総床面積 107,226㎡
(34.20㎡/人)

同一人口規模の団体と比べて、本町の公共施設延床面積は3倍を超える数字であり、非常に多くの施設を保有しています。

参考) 同一人口規模 (3,000人~4,000人) 10.6㎡/人)

○建築年度別整備状況

大規模改修の用途とされる建築後30年を超える施設の延床面積は40%を超えており、現在の施設をそのまま保有すると10年後には60%を超えます。

本町が所有する公共施設を今後とも同規模のまま所有し続けた場合、今後40年間で約453億円、年平均11億円の費用が発生いたします。

そのため将来を見据え、施設の縮減・統廃合・中心市街地への集約化等も視野に入れた適正な整備・維持管理が必要となります。

近年建築された大きな建物

- 平成4年 B&G海洋センター
- 平成8年 ほろしん温泉ほたる館
- 平成15年 養護老人ホーム和風園
- 平成24年 小学校
- 平成29年 暮らしの安心センター
- 町立沼田厚生クリニック

ふるさと創造懇談会を8月19日(水)から町内各所で延べ5回行い、町からは5点を中心にご説明させていただきました。
今回は当日ご説明させていただいた内容を掲載させていただきます。なお更に詳しい説明を聞きたい方は役場総務財政課までお問合せいただけますと、担当者にお繋ぎいたしますので、お気軽にお問合わせください。

○今後の施設のあり方

子どもたちが誇りをもてるふるさとを残していくために

1. 公共施設全体の縮減を目指す!

施設によっては指定管理や譲渡も含めた管理体制を検討

2. 現在管理中の公共施設は今後もしっかり維持管理・長寿命化

3. 公共施設を新たに整備する場合は、統廃合も含め検討する!

4. 農村型コンパクトエコタウン構想の視点から、より中心市街地に施設の集約化を目指す!

5. 我が町の将来にしっかりとつなぐために「この町に一番必要なもの?」「この町に何を残すべきか?」という視点のもと、町民の意見を反映できるように努め、公共施設マネジメント(管理・運営)を目指す!

昨年より5つの視点で「施設のあり方プロジェクト」を役場内に設置し約130ある公共施設の中から優先して取り組まなければならない「14施設」について、今後の施設のあり方を検討いたしました。

【短期的に取り組む建物】
実施中 沼田中学校 校舎改修 (R2~R4)

第1優先 化石レプリカ工房(ふるさと資料館含む)

第2優先 町営スキー場リフト・ロッジ(レイアウト補助金の有無)

第3優先 コンパクトエコタウン(高齢者住宅整備)

※基本設計・実施設計・建設

【中期的に取り組む建物】
町民体育館の改築

(学校併設型の検討)
ほろしん温泉 源氏の宿改築

(施設全体の長寿命化を含め継続検討)

【長期的に取り組む建物】
高齢者施設の改築
(建設地、規模を含め継続検討)

以上の考え方を柱として、今後
町民からの意見等を反映しながら
本町の将来をしっかりと見据えた整
備計画とするよう進めてまいりま
す。



高齢者住宅建設に 向けた検討内容

ご高齢になり、現在の住宅での
生活に不安を感じた際の住み替え
の選択肢としては、旭町に高齢者

住宅があるものの、和風園への入
所が主な選択肢となっている状況
であり、町民皆様への新たな選択
肢として、ICTによる見守りや、
既存の生活支援等の取組を合わせ
持った機能を持つ新たな高齢者住
宅を「暮らしの安心センター」南
側の敷地に整備を検討しておりま
す。

●建設戸数 10戸(1棟5戸)

なお、建設後に入居のニーズが
高い場合は、更に増築できるように
建設スペースの確保。

●家賃

家賃については、入居する方
ご負担を考え、高額になり過ぎな
いよう検討していきます。

●間取り 1LDK

●環境・設備

建設を行う住宅には、Wi-Fi
i設備を基本機能として組み込む
ことにより、時代の変化に合わせ、
ICTの活用により、見守りから
健康管理までを行うことを目指し
て今後、高齢者住宅の基本設計と
並行して内容の検討を進めて行き
ます。

あつまる塾

「あるくらす」が活気のある場
となることを目指して整備を行っ
ていくため「あつまる塾」と銘打っ
て、町民の皆様と一緒に農村型コ
ンパクトエコタウン構想の一部で
ある、高齢者住宅及び暮らしの安
心センター周辺の外構整備につい
て検討を進めて行きたいと考えて
おりますので「あつまる塾」にご
参加いただける方を募集いたしま
す。

なお進め方といたしましては、
基本設計が完了する令和3年3月
(予定)までに数回、皆様からア
イディアやご意見を頂くことを想
定しております。

検討する内容

①高齢者住宅について

②暮らしの安心センター周辺の外
構整備について

JR留萌本線について

○JR北海道の基本方針
(平成28年11月22日)

留萌本線は、利用が少ない線区
であり、毎年の赤字が6億8千万
円におよび、今後の施設の維持等
にも今後20年間で30億円の経費が

掛かる事から、持続可能な交通体系
とするために、バス等への転換につ
いて、地域の皆様と相談を開始した
いとJR北海道の意向が示されました。

○JR留萌本線沿線自治体会議

JR留萌本線沿線自治体会議は北海
道運輸局等に要望書の提出など存続
に向けた要望活動を展開してきまし
た。

JR留萌本線問題の広域での 主な対応経過

平成30年5月 第1回会議

留萌本線存続の可能性をさぐる。
国及び道に要請行動を実施。

平成30年5月・6月

2市2町首長が北海道運輸局、北
海道へ要請行動。

2市2町首長が国土交通省鉄道局
へ要請行動。

平成30年8月 第2回会議

国交省による監督命令の対応につ
いて協議。

平成30年9月 第3回会議

北海道運輸局・北海道・JR北海道
からの説明を受ける。

令和元年6月 第4回会議

従前のとおり留萌本線の存続をさ
ぐることを確認。

令和2年8月 第5回会議

沼田町く留萌市間の廃線を容認。

○沼田町の考え方

○国・北海道・JRへの存続要請の継続。

○JR留萌本線輸送密度向上の為、利用促進策を実施し存続の道をさぐる。

利用促進策

(令和2年度実施及び予定事業)

- ① JR留萌本線応援事業「ペーパークラフトコンテスト」
- ② JRに乗り続け隊の募集
- ③ JR石狩沼田駅舎の活用



自然学校の取組みについて

○まるごと自然体験プロジェクト

目指すのは…

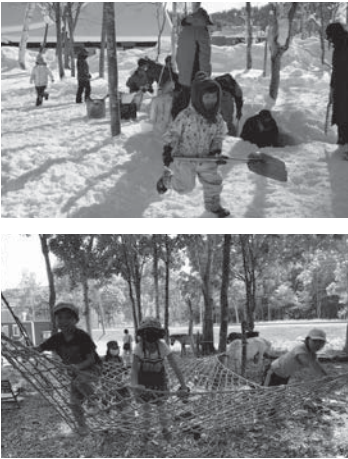
- ・幌新の森と町全体の価値の向上
- ・町民の自慢の場所・郷土愛
- ・語り部づくり(町民ガイド)
- ・沼田町ならではの資源
- ・日本一のまちづくり

○町内には魅力的な資源がある

様々な分野で活躍する専門家を招き、町民と交流しながら新しい学びや活動をする場をつくっていきます。

活動を広げ、沼田町ならではの地域ブランドを発信していきま

す。コーディネート組織として自然学校を設立します。



町長から3つのお願い

①加工用トマトの栽培

「日本一加工用トマト生産地を目指す」

②高齢者就労支援事業所の登録

(旧シルバー人材センター)

「人生100年時代を目指して」

③商品開発への挑戦

主な質疑応答内容

体育館について

Q 町民体育館と中学校の体育館の2つはどつするの？

A 町民体育館と中学校の体育館の2つとも古い。2つの施設を建てると2重の経費がかかるので、併用できないか検討をしている。一つの建物に2面のコートが出来ないかも検討している。

高齢者住宅について

Q 1LDKでベッドが2つ入るとの説明であったが、ベッドは介護用ベッドの大きさを想定したものでか？

A 介護用ベッドを想定している。

Q 介護状態でなく元気なうちから住むことができるのか？

A 長く住めるように考えている。

JR留萌本線について

Q 高校生はほとんどJRで通っている。年配の方も利用している。沼

田く深川間は全力を上げて存続させてほしい。

A 何としても通学通院の方の足を確保するため、私自身周りの首長と存続に向けて頑張りたい。

Q JR留萌本線は大丈夫なのか？

A 正式協議はこれからである。今回の合意で一步譲歩して可能かどうか存続に向けて頑張っていきたい。

Q ラジオでJR留萌本線が廃止だと放送していた。これからは条件闘争だと思ふ。町で腹案はあるのか？町で単独交渉しないのか？町で単独条件を出せば良い。

A 腹案は無い。JR北海道との正式協議はこれからである。ほかの自治体の協力が無ければ存続活動ができない。これから沼田く深川間の存続に向けた折衝協議になる。

自然学校について

Q 自然学校は他からも人を呼んでくるのか？

A 道内の自然学校の方々が人を呼んでくれている。しかし今は新型コロナウイルスの関係で昨年の参加者に声掛けをして実施している。